

# 四谷の

# 千枚田だより



第 245 号

横浜ゴム(株) 新城工場

「つなぐ棚田遺産」

感謝状贈呈



農林水産省は棚田地域の振興に  
関する取組を積極的に評価し、国民  
の皆さまに、棚田地域の活性化や棚  
田の有する多面的な機能に対する  
より一層のご理解とご協力をいた  
だくため、全国二百七十一の棚田を  
「つなぐ棚田遺産」ふるさとの誇  
りを未来へ」として選定した。そ

の、選定され  
た棚田地域に  
おける多様な  
主体との連携  
や協力を促進、  
棚田地域の振

興等に貢献する企業・大学等の取組  
を評価し、優れた取組を実施する企  
業等に「未来へつなぐ」、「人と人  
をつなぐ」、「クリエイティブ」の三  
つの部門(十八企業)に感謝状が贈  
呈された。

横浜ゴムは「未来へつなぐ」部門  
に選定された。

**推薦理由** 同社は長年にわたって  
保存会と連携し社員研修、環境活動  
等を通じた棚田の維持・保全・振興  
に貢献してきた。愛知県としては保  
存会が特に感謝している企業に感  
謝状を贈呈すべきと同社を推薦。

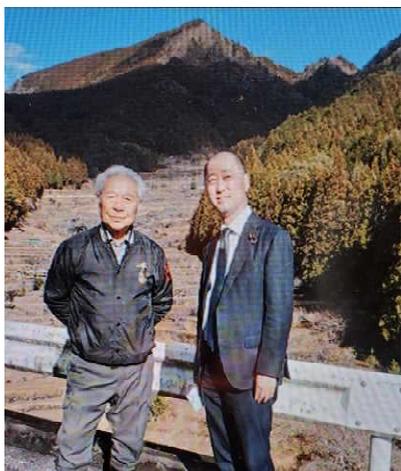
贈呈式は二月八日、横浜ゴム講堂  
において愛知県新城設楽農林水産  
事務所村山所長から速見工場長に  
贈呈された。

### 国会議員新城市管内視察

一月二十一日(日)、参議院宮崎雅  
夫議員が新城市管内を視察された。  
来訪までの経緯及び目的

現在 中山間地域である新城地区  
においては鳥獣害被害、後継者不足  
による営農者の高齢化、用排水路を  
初めとする土地改良施設の老朽化、  
耕作放棄地の拡大など様々な課題  
を抱えている。これらの状況を視察  
いただき、更なる国の支援を要望す  
ることが必要である。新城土地改良  
区理事長がこの機会を模索する中

で、関係する土地改良関係機関にそ  
の可能性を打診したところ、参議院  
議員宮崎雅夫氏の当地へのご来訪  
が実現したものである。宮崎議員の  
参議院における役職等は(令和六年  
二月三日現在)農林水産委員会 予  
算委員会(理) 災害対策特別委員会  
情報監視審査会 プロフィール・  
全国土地改良政治連盟顧問・全国水  
土里ネット会長会議顧問・全国た  
め池等整備事業推進協議会副会長・全  
国中山間地域振興対策協議会顧問  
などの要職にあり、農林水産業に関  
わる役職にも就かれています。今般の  
来訪は非常に得がたい機会である  
ので前述のような土地改良分野に  
限らず当地における農林業におい  
て幅広く視察いただいた上で直接  
要望すべきと考え関係各団体から  
の要望書(①土地改良事業関係 ②  
林業関係 ③畜産業関係)を提出し



た。  
四谷の千枚田の現地対応は小山  
(保存会会長・内閣府 地域活性化伝

道師)が口頭で要望した。

四谷の千枚田の全景が見渡せる  
真正面から「耕す耕作者の厳しい条  
件の棚田の保全・継承の取り組み、  
都市近郊から訪れる人々の癒しの  
空間の提供、市・県の顔、国の宝と  
して大きく位置付けられている。そ  
んな実情を説きながら、平成十五年  
に「ふるさと水と土ふれあい事業」  
の採択により施設整備(農道・水車  
小屋・ぼつとり・ふれあい広場等)が  
行われた。もしも、この整備が行わ  
れていなかったなら、農道もなく、  
機械の出し入れも難儀で、今の千枚  
田は存在しなかったと言っても過  
言でない。耕作者も農道を作ってく  
れたからコメを作る。もし、道が無  
かったら何時に、やめている。「ふる  
さと水と土ふれあい事業」による施  
設整備は本筋にありがたく、耕作者、  
都市近郊から訪れる人々と共に感  
謝している。で、先生にお願いです  
が、施設整備が行われて以来、国民  
に誇れる「四谷の千枚田」を耕作者、  
地域ぐるみで保存継承に全力を挙  
げているが、寄る年波には限界があ  
り、現在、農道を含むほとんどの施  
設の老朽化が進み、農道(景観道)に  
至っては景観を重視した「見た目に  
優しい骨材」で舗装が施されたが、  
現在では表面が剥がれボロボロの  
状態である。また水車、ぼつとりな  
どは見るも無残な状態である。本日  
ご一緒した行政関係機関の皆さん  
の前で、先生に口頭で要望したとい  
うことでよろしいでしょうか。との  
お願いに先生は「わかりました」と

大きな理解を示された。  
**田起し&田んぼとび**

一月二十三日(火)は、鳳来寺小学校四・五年生が四谷の千枚田に出かけました。春に向けて田起こしをするためです。

初めは肥料まきです。地域の先生から、肥料のまき方を教えてもらい、みんなで田んぼにまきました。

次は、鍬をつかっつての田起こしです。初めのうちは、先生のようにうまくできませんが、だんだんと鍬の使い方が上手になっていきます。土をひっくり返すのは大変ですが、交代しながら田起こしを行いました。

最後は、お楽しみ田んぼ跳びです。準備運動を終えると、だんだんになった田んぼを上がり、一気に駆け下りていきます。安全に気をつけて、コースを選び、下りていきます。みんなでやるのが楽しいと三回も行いました。

これで、田んぼのお世話は、五年生から四年生に引き継がれました。四月からは新五年生が四谷の千枚田で活動をしていきます。

この日の様子は「ティーズホムステーション」で紹介されました。初回放送は、一月二十五日(木)18:00からです。二十六日からはYouTubeでも見られます。 鳳来寺小学校用より

### 追記

児童たちは二鍬三鍬田起ししただけで腰が痛いとか疲れたとか、慣れない農作業に四苦八苦していた。事前に、備中を使つての田起こしは田んぼが小さいし、備中は歯が尖つ



て危険であるから隣りとの間隔を十分に開けて前に、前に起こすようにと説明したにも関わらず、好き勝手なところをてんでバラバラに起こす始末。見かねて田起しをストップ。皆んなの起しているのを見ると「犬の糞」のようだ。田んぼはこうして起こすのだ、と備中でサクサクサクッと、起こすのを見せた。そして、おじさん達(いやおじいさん)の若い頃には四谷の千枚田は千三百枚もあった。そのほとんどの田んぼを備中で起こしたり、鍬で代掻きをした。と説明しても児童たちは

「うそ」と全く、信用していない。それはそうだ、児童たちの親は平成生まれで、昭和の中期など知る由もない。児童たちは、それでも「習うより慣れる」の格言の通り次第に「コツ」を覚えて田起しは無事終了。達成感を得た児童たちに百三十点満点の百点をあげたら、また、「うそ」と大はしやぎであった。

### 千枚田に春が来た

二月五日、十五mmの雨が降り、その刺激で六日早朝にビオトープでヤマアカガエルの産卵を確認した。同種はカエルの中でも一番早く感謝。



産卵。産卵後は、また山に帰り、眠りにつき、五月ごろ目を覚ます。ヤマアカガエルの由来は四谷の大木の沼地から平成十六年に移植したもので、その一年前に移植したモリアオガエルと同沼地で、遺伝子的に問題ない個体である。

### 生産活動

一月二十八日、中山間地等直接支払制度生産活動の一環として、千枚田の沢の草刈りや群生したメダケの除伐を行った。



発行 令和六年二月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
文責 小山舜二